

私の書作活動

田中節山（高10回）

私の書作活動は、大きな展覧会への出品が多いので、大字制作が中心です。脳の活動と手の動きが悪くなったら制作活動に終止符を打ちます。

飯田高松高校で、本格的に書道の勉強を始め、大学も書道が中心でした。卒業時には長野県の高校教員採用試験に合格し、

飯田地区の高校に赴任することも決まっていたのです。ところが、卒業直前に、在学中から師事していた書家（上条信山先生「文化功労者」）に、飯田へ帰って教員をすると報告に行ったところ、「お前、飯田に帰ったら書



「隆熾」燃えて輝く

この作品は第54回書象展に出品した作品です。2015年の12月から7年間、安倍晋三内閣総理大臣在任中に総理官邸に掲額されました。そして昨年に成田山新勝寺書道美術館へ奉納いたしました。



●たなか・せつざん
本名・裕昭。喬木村出身。大東文化大学文学部卒。大東文化大教授を経て現在、同名誉教授。日展特別会員、謙慎書道会副会長、日本書道ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会委員、関東地区喬木村ふるさと会会長。

「留神」

「しっかりと心をついても保っていききたい」という意味。心豊かに堂々と大きく書くことと思った。



道がだめになる。仕事なら俺が探す」という強いお言葉をいただき、東京に残ることになりました。それ以降、書作に専念し、私立成蹊学園で17年間、中高生を指導。安倍晋三元内閣総理大臣も生徒の一人でした。やがて母校の大学から書道の専任として招かれました。大学では専門に書を学ぶ学生を相手に定年まで長く書道学科の主任を務めました。その間、書道を本格的に学び、日展の審査員を6回、その他多くの書展の審査をしてきました。現在は、日本の書道をユネスコ世界文化遺産にするための国内でのPR活動をしています。



「海」

広い海 波が寄せたり返したり。
深い海 墨の色を工夫してみました。